

令和元年度第1回きのくにコミュニティスクールの推進に係る 研修会（西牟婁会場）

1. 日時 令和元年5月25日（土） 9時30分～12時00分
2. 場所 上富田文化会館小ホール
3. 参加者 学校運営協議会委員 教職員 市町村教育委員会担当者等 合計78名

4. ねらいと成果・課題

（1）学校と地域が、連携から協働の関係へと発展するためのヒントについて

- ・地域の協力を得ながら学校運営を行ってきた学校が多い中、「きのくにコミュニティスクール」の導入によって、変わらないところは何か、これから変化していくところは何かということが整理され、これまでの支援するという関係だけではなく協働へとつながることを、参加者にとって「気付き」のあるワークショップとなった。

（2）学校と地域のめざす関係を、ワークショップを通して学んだことについて

- ・「既に地域と連携している」という自負が少なからずある学校において、これから必要なことは、今ある事業も含めて、目的や思いを「共有」することであり、そのことが「連携から協働へ」、「開かれた学校からともにある学校へ」と進化することを教えていただいた。今後の学校運営協議会の進め方のヒントを得ることができた。

（3）美加の台地域の事例から、取組を長続きさせるための工夫について

- ・児童生徒数の減少が進む学校が多い中で、これから「何を実践していくか」を計画・実行していくことも必要であるが、それらの取組が持続可能なものしていくためには「何を縮小するか」「何を見直すか」という「断捨離」についても正直に熟議できるような、フラットな関係にある学校運営協議会に成長していく必要がある。

（4）その他

- ・今回の参加者が研修で学んだことを、研修機会の少ない学校運営協議会委員や教職員にどのように伝え、当事者意識を広げていくことができるかが今後の課題である。今回のような分かりやすいワークショップを、各運営協議会単位で実践することも今後必要である。

5. 研修内容 『『開かれた学校』から『ともにある学校』へ
～子どもたちの未来づくりとまちづくり～』

◆講演・ワークショップ

「きのくにコミュニティスクールだからこそできること

～事例と熟議（ワークショップ）～

文部科学省CSマイスター

ゆめ☆まなびネット代表 大谷 裕美子 氏

大阪府河内長野市の美加の台地域で実践されている事例を紹介いただきながら、現在、学校と地域が連携して行っていることを参加者同士で共有し、これから実践していけそうなこと、整理できそうなことなどを互いに学び合う研修会となった。

◆講演

- ・コミュニティ・スクールを自転車に例えると、自転車の前輪が学校運営協議会、後輪が地域のボランティアの方々など、和歌山で言えば共育コミュニティにあたる。サドルには子供たちが座っている。ハンドルやブレーキを握るのは校長先生で、ペダルをこぐのはコーディネーター的な役割を担う人というイメージになる。
- ・学校では、目的・目標を明確にして様々な活動を行っている。これまで学校は、地域のボランティアの方々に十分に目的や目標を伝えずに、学校支援の活動をお願いしていたかもしれない。社会に開かれた教育課程を実現していくためには、学校運営協議会の中で、その活動の目的は何か、学校の教育課程とどう関連づけるのかなどといった情報を共有し、協働して取り組んでいく必要がある。
- ・コミュニティ・スクールを導入した当初は手間がかかるが、学校運営協議会が充実してくると教育内容も充実し、当初ほど手間もかからなくなる。さらに、行事を「断捨離」することも可能になっていく。

◆ワークショップ（前半）

①現在「教室の中」で行われていること

- 「昔のあそび」「調理実習のサポート」
- 「読み聞かせ」「図書ボランティア」など

②現在「学校の門の中」で行われていること

- 「もちつき」「校内の草刈り、環境整備」
- 「地域の盆踊り」「芝生グラウンドの手入れ」など

③現在「学校の門の外」で行われていること

- 「職場体験」「米づくり体験」「通学路の見守り活動」「地域のお祭り」
- 「スポーツ少年団活動」など



◆ワークショップ（後半）

④これから「教室の中」でやれそうなこと

- 「地域の方の作品の展示」「ボランティアの紹介の掲示」
- 「パソコンの補助、ミシンの補助」「計画段階からの子供の参画」など

⑤これから「学校の門の中」でやれそうなこと

- 「部活動の支援」「文化祭の道具づくり」「本のリユース」
- 「休み時間の見守り」「スポーツテストの補助」「地域の名前を覚える」など

⑥これから「学校の門の外」でやれそうなこと

- 「学校だよりの配布」「コーディネーター見つけ」「遠足のサポート」
- 「合同避難訓練」「地域の名所めぐり」など

6. 参加者の声（アンケートより）

（1）学校運営協議会等関係者

- ・協働の進め方を、どんな発案によってどう実現していったか、豊富な実例をもって紹介していただき、大変参考になった。
- ・支援から協働、そして主体へ。このようにステップアップをしていきたいと思う。たくさんの事例や取組を紹介していただき、また他地方の方とも交流でき、大変良かった。



（2）学校教職員

- ・自校の取組を一度整理して、新しい取組を導入しながら精選、充実させていきたいと思う。
- ・教室の中、学校の門の中、学校の外という区分けで、地域の人に協力してもらおう場を整理して考えることができた。お互いに関わることの喜びを味わえるコミュニティ・スクールを考えていきたい。
- ・具体的な事例がたくさんあり、とても参考になった。地域の方への御礼の会や、作品展、お月見会など、やりたいと思いつつやれなかったことを実現するヒントをいただいた。
- ・付箋を貼っていきながら、「教室の中」で行われる活動が多いことが望ましいことと知り、自校を振り返り、改善していくべきことを実感した。
- ・昨年からはスタートしたが、今日の研修会で一歩進むことができる感じがした。

（3）市町村教育委員会担当者

- ・やる気の出る研修会だった。頭の中が整理できた。
- ・コミュニティ・スクールとは、学校運営協議会での協議により、今までの支援だけでなく協働となることを理解した。地域と学校の意味疎通をさらに良くし、学校+地域づくりに貢献したい。
- ・具体的に学校運営協議会のミッション、ガバナンス、リテラシーを示していただいたので、今後の運営に資するものであった。
- ・コーディネーターの役割がとても重要だと思う。今後コーディネーターの導入も考えていきたい。本日は色々なアイデアをいただく機会を作っていただいた。